

## 解放の喜び 詩篇 126:1-6

2022. 9. 4 丘の上 NO. 685

春日部福音自由教会 山田豊

本詩篇の時代背景は、1節の言葉の解釈によります。新改訳聖書 2017 では、「【主】がシオンを復興してくださったとき」と書かれています。新共同訳には「主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて」とあるように、ユダヤの民が新バビロニア帝国から解放されて祖国に戻り、都エルサレムが復興され、再建された神殿に詣でることの喜びを歌った詩篇であると理解されています。バビロン捕囚という出来事が、この詩篇の背景にあるわけです。

1-3節は、主なる神がバビロン捕囚の苦しみから解放し、祖国に帰れたことの喜びが歌われています。4節にあるネゲブはイスラエルの南にある荒涼とした地域です。現在でも赤茶けた大地は、火星の探査調査の訓練に使われるほどです。大雨によって一気に濁流となって地を流れる川のように、大勢の民が帰還する様子を表現しています。

イスラエルの国は、サウロによって王政が始まり、ダビデによって国は確立しました。その子、ソロモンの時に領土は大きく広がりましたが、彼の死後、王国は北王国イスラエルと、南王国ユダに分裂してしまいました。やがて隣国の脅威にさらされる中で、北王国はアッシリアによって滅ぼされました。その後南王国も、台頭してきた新バビロニアによって侵略を受け、王をはじめ多くの民がバビロンに引かれていきました。その後、ベルシャが新しく起きると、時の王クロスは、ユダヤ人に故郷に戻るようにとの帰還命令を出したのです。神は異教徒を用いて、彼らを復興させたのでした。捕囚となってから、およそ80年の歳月が経っていました。

帰還したとはいえ、都は焼けて荒廃し、神殿も廃墟となっていたのです。そのような中で、ネヘミヤは「さあ、再建にとりかかろう！」といて人々を鼓舞し、困難を乗り越えて、ついに神殿を再建したのでした。

ソロモンによって建てられた最初の神殿よりは、小さかったようです。それでも人々は、再び神殿に詣でて主なる神を礼拝し、神の言葉である律法を再び聞くことができる喜びに満たされていました。彼らが賛美した声は、遠くまで聞こえたと聖書は記しています。

イエスキリストは、罪にとらわれている私たちに解放するために、十字架にかかり、尊い血潮を流してくださいました。苦しみの中にあっても、私たちはすでにこの最も大きな捕囚から解放されていることを、改めて感謝し、自らの人生を立ち上げる喜びを味わっていきたいのです。

## 引用聖句

2列王18:9-11 :9 ヒゼキヤ王の第四年、イスラエルの王エラの子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲し、10 三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。11 アッシリアの王はイスラエル人をアッシリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に定住させた。

2列王25:21 バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らを打ち殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。

2歴代36:22-23 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。23 「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神、【主】がともにいてくださるよう。その者は上って行くようにせよ。』

エズラ1:1 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

ネヘミヤ1:3-4 彼らは私に答えた。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたままです。」このことばを聞いたとき、私は座り込んで泣き、数日の間嘆き悲しみ、断食して天の神の前に祈った。

ネヘミヤ2:11-18 こうして私はエルサレムに着いて、そこに三日間とどまった。12 ある夜、私は起きて出て行った。ほかに数人の者も一緒であった。しかし私は、私の神がエルサレムのためにさせようと私の心に示しておられることを、だれにも告げなかった。また私自身が乗った動物のほかに、動物はいなかった。13 私は夜、谷の門を通過して竜の泉の方、糞の門のところに出て行き、エルサレムの城壁を調べた。それは崩され、その門は火で焼き尽くされていた。14 さらに、泉の門と王の池の方へ進んで行ったが、私が乗っていた動物の通れる場所がなかった。15 夜のうちに流れを上って行って、城壁を調べた。そしてまた引き返し、谷の門を通過して戻った。16 代表者たちは、私がどこへ行っていたか、また私が何をしていたかを知らなかった。ユダヤ人にも、祭司たちにも、有力者たちにも、代表者たちにも、そのほか工事をする者たちにも、その時まで私は何も告げていなかった。17 私は彼らに言った。「私たちが直面している困難は見てのとおりだ。エルサレムは廃墟となり、その門は火で焼き払われたまま

だ。さあ、エルサレムの城壁を築き直し、もうこれ以上、屈辱を受けないようにしましょう。」18 そして、私に恵みを下さった私の神の御手のことと、また王が言ったことばを彼らに告げた。すると彼らは「さあ、再建に取りかかろう」と言って、この良い仕事に着手した。

ローマ5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

## バビロン捕囚

前586年、ユダ王国が新バビロニアに征服され、ユダヤ人がバビロンに連行され、捕囚となった。前538年にアケメネス朝キュロス2世によって解放された。第2回バビロン捕囚を、一般に「バビロン捕囚」と言っている。この時エルサレムから連れ去られたのはエレミヤ書に依れば832名とされているが、これも家長だけの数字であろう。この時はエルサレムは徹底的に破壊され、神の加護の象徴であった神殿にも火がかけられ、ユダ王国は滅亡した。(世界史の窓 HP より)



(ワンポイント解説 BIBLE より)